

## 愛しすぎて／詩人の妻（1994）

TOM &amp; VIV

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 イギリス

色彩 Color

時間 125分

初公開日 1995/05/27

公開情報 ギャガ・コミュニケーションズ

## 【解説】

20世紀英国詩壇を代表する、米国生まれの詩人T・S・エリオットとその狂気の妻（有名な詩集『荒地』の題は彼女の考案という）の永年にわたる愛憎の葛藤を綴る、いささかヘヴィな作品。先天的な要因もあり、時に見境のない行動を起こす妻ヴィヴィアン（初夜にメンスとなり狂乱する場面は凄まじい）にほとんど手を焼くエリオット。彼女の父がこの結婚に断固反対したのも、娘のそんな危うい傾向をひた隠しにしておきたかったからだ（しかし、文学者であるエリオットなら、その苦悩も推し量るだろうと母は早くから賛成する。彼に娘を託す旨の言葉を申し添えて）。そして、彼への盲愛から起こす妻の奇癖（秘書にすら嫉妬して、事務所の郵便受けに溶かしたチョコレートを流し込むシーンは圧巻）にひたすら耐えるエリオットだったが、日増しに荒れていくヴィヴィアンの姿を、海外から帰国して久方振りに見ておののいた弟の助言もあって、いよいよ精神病院に送ることにするが、彼はその行いを恥じ、そして忘れようとし、一度も妻を見舞わない。だが、妻はいつも夫の迎えを待ちわび、彼を悪く言う者を許さなかった……。オスカー候補となった妻役のリチャードソンは熱演は確かだが、力みすぎで役の心情を伝えきれず、最後の夫の冷酷な仕打ちも、表面的な演出で真意を掴みかねる。エキセントリックな対象を描くには、もっと細心のデリカシーが必要なはずだ。

## 【クレジット】

|    |               |                    |
|----|---------------|--------------------|
| 監督 | ブライアン・ギルバート   | Brian Gilbert      |
| 製作 | マーク・サミュエルソン   | Marc Samuelson     |
|    | ハーヴェイ・カース     | Harvey Kass        |
|    | ピーター・サミュエルソン  | Peter Samuelson    |
| 原作 | マイケル・ヘイスティングス | Michael Hastings   |
| 脚本 | マイケル・ヘイスティングス | Michael Hastings   |
|    | エイドリアン・ホッジス   | Adrian Hodges      |
| 撮影 | マーティン・フューラー   | Martin Fuhrer      |
| 音楽 | デビー・ワイズマン     | Debbie Wiseman     |
| 出演 | ウィレム・デフォー     | Willem Dafoe       |
|    | ミランダ・リチャードソン  | Miranda Richardson |
|    | ローズマリー・ハリス    | Rosemary Harris    |
|    | ティム・ダットン      | Tim Dutton         |
|    | ニコラス・グレイス     | Nickolas Grace     |
|    | ジェフリー・ベイルドン   | Geoffrey Bayldon   |
|    | ジョアンナ・マッカラム   | Joanna McCallum    |
|    | フィリップ・ロック     | Philip Locke       |
|    | マイケル・アトウェル    | Michael Attwell    |